

4. 広場レイアウトのポイント（仮説検証）

4. 広場レイアウトのポイント（仮説検証）

1章では、文献整理等を通して広場の利用者行動に関する知見を収集したが、客観的なデータなどによって裏付けされているものは少ない。

そこで本章では、3章の観測調査データを用いて知見の検証を行った。

4－1. 仮説の設定および検証

- ・ 仮説は広場の賑わいに着目して、広場で発生するアクティビティの違い（滞留の質、長さ、人数など）に応じた整理を行った。
- ・ また、広場内のレイアウトに関する仮説に加え、広場利用と周辺での回遊行動の関係性（波及効果）に関する仮説についても検証を行った。

表 4-1-1 仮説一覧

分類	No	仮説（知見）	利用データ	検証結果
波及効果	1	・ 広場の利用目的の違いにより、2種類の波及効果がある。 波及効果A：短時間滞留による休憩後の回遊の活性化 波及効果B：広場の集客力による周辺店舗前の人通り増加	町田	○
	2	・ 広場利用後の店舗立ち寄りとは、広場から一定の範囲内で多く発生する	町田	○
	3	・ 広場空間は、一般の歩行空間と比べて多様な属性の人に利用される。	町田	○
滞留の質	4	・ テーブル席とベンチとでは、テーブル席の方が飲食行動が発生しやすい。	富山	○
	5	・ 人通りの多い出入口から離れた席では、長時間の利用が多い。	富山	○
	6	・ 座席近くを歩行者が通りやすい座席では、短時間利用が多い。	富山	○
滞留の長さ	7	・ エッジ（植栽）近くの座席は長時間利用されやすい	富山	○
	8	・ ベンチはテーブル席と比較して、短時間利用されやすい。	富山	○
	9	・ 交通結節点近くの広場では滞留行動が多く起きやすい。	町田	○
レイアウト	10	・ 個人利用者は、植栽等で守られた奥まった席を選択しやすい。	富山	○
	11	・ 1人でも利用者がいるテーブル席は、（相席）利用されにくい。	富山	○
	12	・ テイクアウト可能な飲食店舗近くは、座席の利用率が高い。	富山	○
滞留の人数	13	・ 人通りの多い広場出入口近くの座席は利用されやすい。	富山	○
	14	・ 眺める対象（人通りなど）がある席は、選ばれやすい。	－	－
	15	・ 女性は壁、植栽等で囲まれた領域性の高い座席を利用しやすい。	－	－
通り抜け	16	・ デザイアライン上の滞留空間では、座席間の通り抜けが発生しやすい。	富山	○
立ち止まり	17	・ 店舗周辺の見通しが良い場合は、店舗近くでの立ち止まり行動が発生しやすい。	－	－
	18	・ 広場中央、出入口近くでは、広場を見渡す立ち止まり行動が発生しやすい。	－	－

4-2. 各仮説の検証結果

No.01「広場の利用目的（途中休憩のための短時間利用or目的地としての長時間利用）の違いにより、2種類の波及効果がある」

波及効果A：短時間滞留による休憩後の回遊の活性化

波及効果B：広場の集客力による周辺店舗前の人通り増加

利用データ：H28町田駅周辺 調査データ

分析：広場滞留後の店舗立ち寄り率（スタティック・ログ、ロングトレース調査）

滞留時間別の飲食・会話行動の発生率（スタティック・ログ調査）

波及効果A：短時間滞留による回遊の活性化

- ・広場での「短時間滞留者」と「長時間滞留者」のその後の街なかでの「店舗立ち寄り行動」について見てみると、短時間滞留者の多くは滞留後に周辺店舗に立ち寄っていることが明らかとなった。
- ・短時間滞留は広場の賑わいには寄与しにくいが、街なかの回遊の活性化には重要な役割を担っていることが示された。

波及効果B：広場の集客力による人通り増加

- ・滞留時間別の飲食・会話行動の発生率を見てみると、長時間滞留ほど飲食・会話行動の発生率が高いことが示された。
- ・すなわち、居心地の良い魅力的な広場には、飲食・会話などをして楽しく過ごすことを第一目的とした来訪者を集客する効果があることが確認できる。

波及効果A：短時間滞留による回遊の活性化

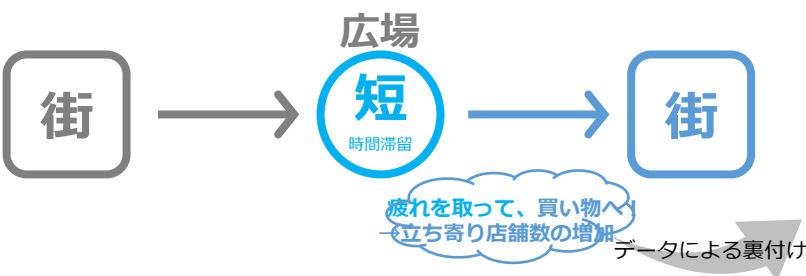
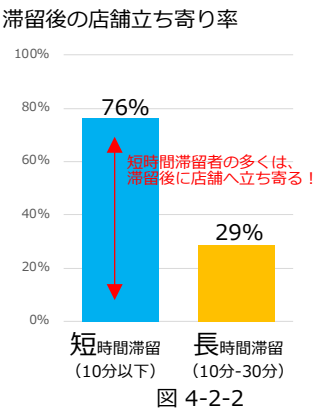


図 4-2-1 波及効果イメージ<短時間滞留>



波及効果B：広場の集客力による人通り増加

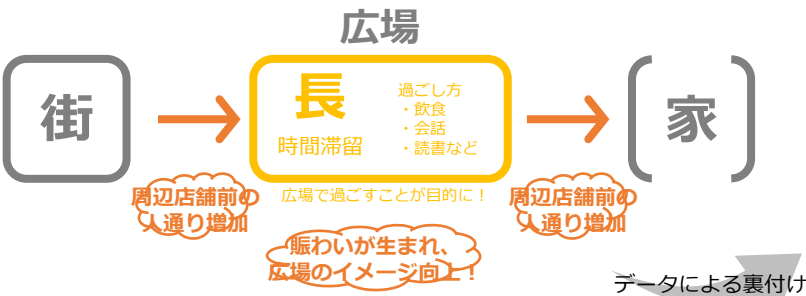
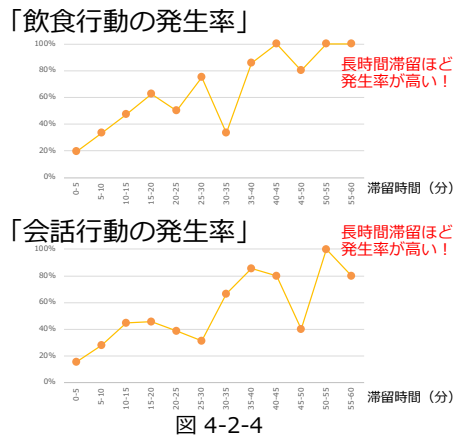


図 4-2-3 波及効果イメージ<長時間滞留>



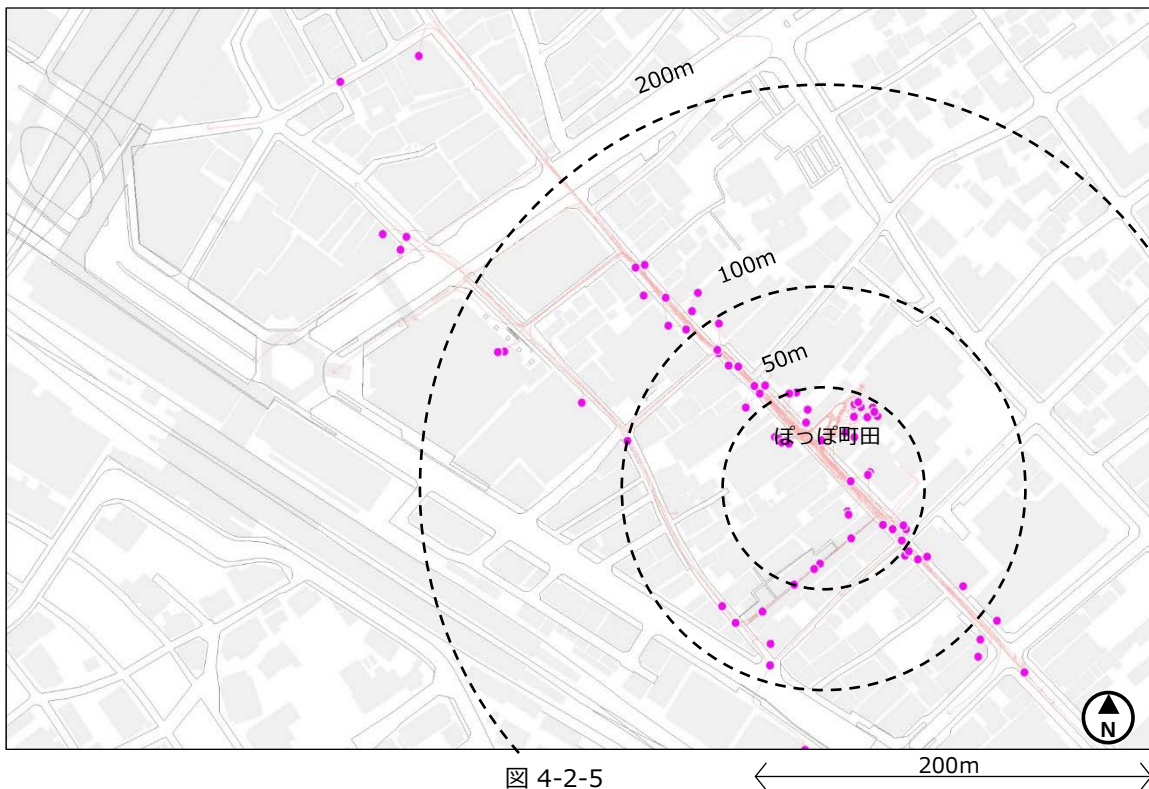
No.02「広場利用後の店舗立ち寄り」は、広場から一定の範囲内で多く発生する」

利用データ：H28町田駅周辺 調査データ

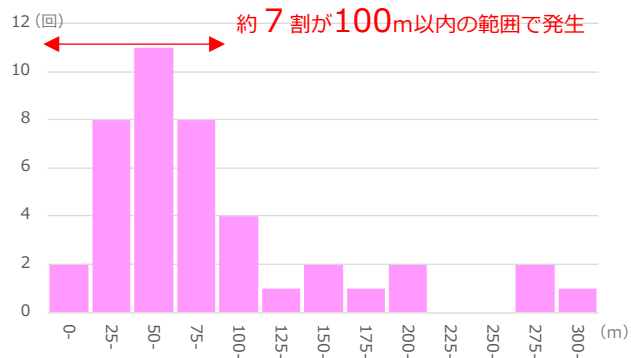
分析：広場滞留後の店舗立ち寄り行動の分布（ロングトレース調査）

- ・広場滞留後に街に出ていき、1件目に立ち寄る店舗までの道のり距離を見てみると、広場から50m-75mの範囲に店舗立ち寄り行動が最も集中し、それより遠い範囲では立ち寄りが少なくなることが示された。
- ・全店舗立ち寄りの約7割は広場から100m以内の範囲に収まっており、広場から100m以内の範囲は1件目の店舗立ち寄り行動が発生しやすい距離帯であると考えられる。

広場滞留後の店舗立ち寄り行動の分布



1件目店舗立ち寄りの距離帯別の発生分布



利用データ：H28町田駅周辺 調査データ

分析：歩行者（周辺エリア）の年齢内訳（ゲートカウント調査）

滞留者（ぼっぼ町田）の年齢内訳（スタディック・ログ調査）

- ・広場周辺エリアの人通りの年齢内訳を見ると、平日と休日で年齢構成のバランスに違いがみられる。両日ともに青年層-中年層が多くを占めるが、平日は高齢者が比較的多く見られ、休日は中高生以下の子供が多く見られる。
- ・同様にぼっぼ町田の滞留者の年齢内訳をみると、広場周辺の人通りの年齢構成よりも、より多様な年齢層に利用されていることが確認できる。平日はより高齢者の割合が増え、休日はより中高生以下の子供の割合が増加している。

歩行者（周辺エリア）の年齢内訳

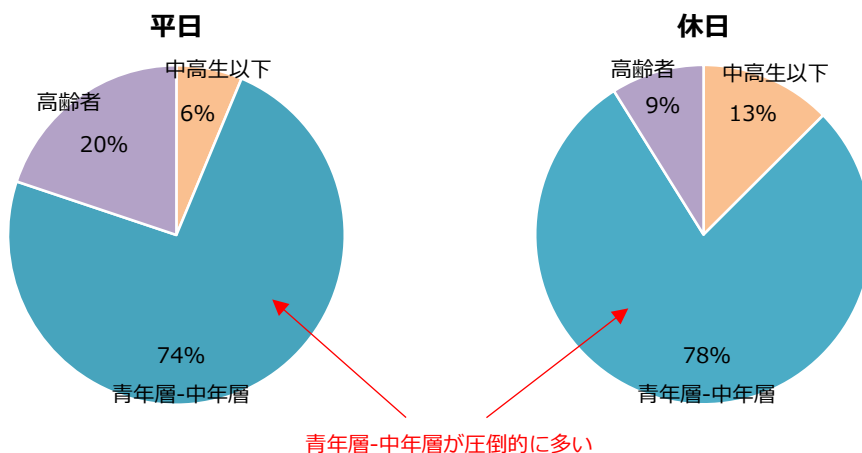


図 4-2-7

滞留者（ぼっぼ町田）の年齢内訳

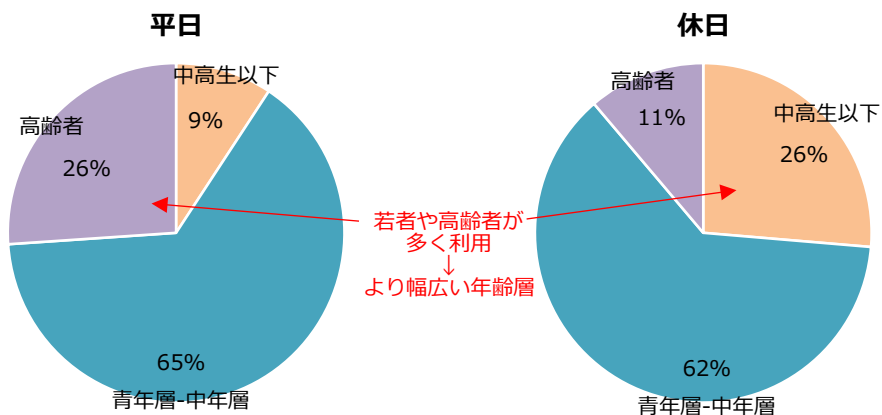


図 4-2-8

No.04「テーブル席とベンチとでは、テーブル席の方が飲食行動が発生しやすい」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：テーブル席とベンチの飲食行動の発生率、飲食行動をした滞留者の平均滞留時間
(スタディック・ログ調査)

- ・テーブル席とベンチの飲食行動の発生率を比較すると、テーブル席の方が発生率が高い傾向にある。
- ・また、飲食行動をした滞留者の平均滞留時間を比較すると、テーブル席の方がより長く滞留しており、テーブル席は長時間の飲食行動を誘発しやすいことが示される。

※調査日15日では、特異なサンプルが含まれていたためこの傾向を示すことができなかった。

テーブル席とベンチの飲食行動の発生率

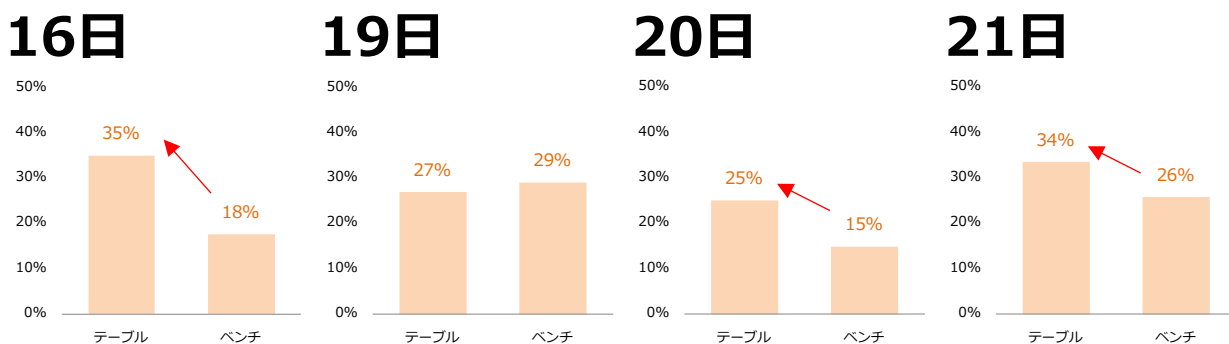


図 4-2-9

飲食行動をした滞留者の平均滞留時間

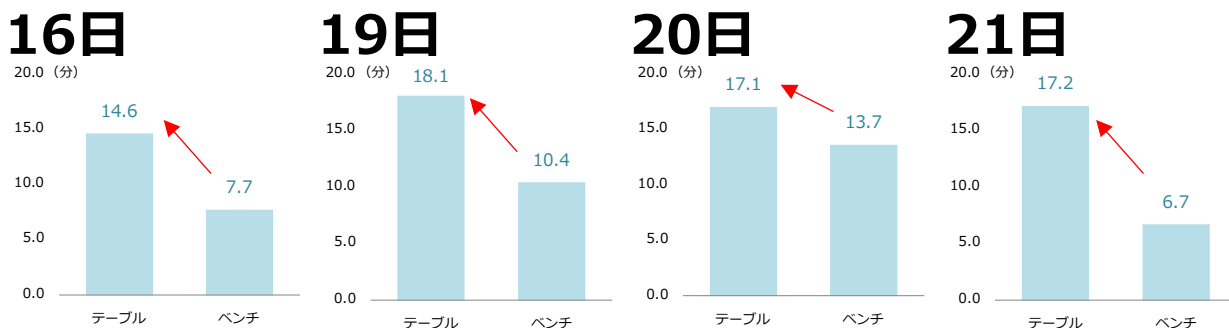


図 4-2-10

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析：出入口からのテーブルまでの距離、テーブル利用者数、平均滞留時間
(スタディック・ログ調査)

- ・調査日15日は広場中央のフェリオ（商業移設）出入口近くに座席を配置したため、フェリオ出入口からの距離に応じて滞留時間に変化がみられる。出入口から遠いほど利用者数が少なく、平均滞留時間は長い傾向にある。
- ・また、調査日20日は広場南側の出入口近くに座席を配置したため、南側出入口の影響を強く受けており、南側出入口からテーブルまでの距離と平均滞留時間を比較すると同様の傾向が確認される。

調査日：15日

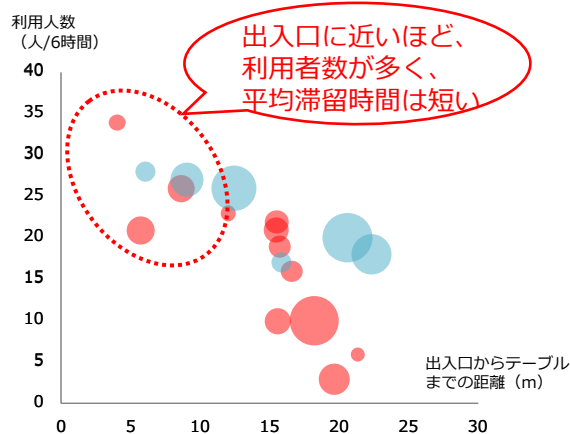


図 4-2-11 「出入口からの距離」と「テーブル利用人数」「滞留時間」との関係

● 広場北側のテーブル
● 広場南側のテーブル

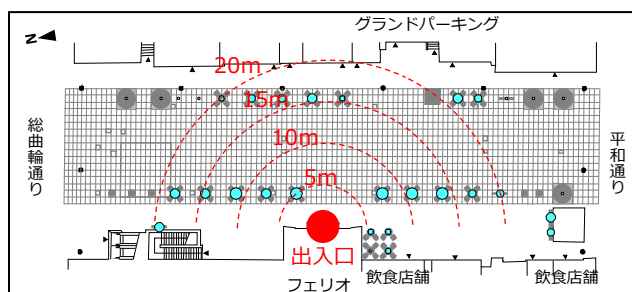


図 4-2-12 テーブルと出入口の位置関係

調査日：20日

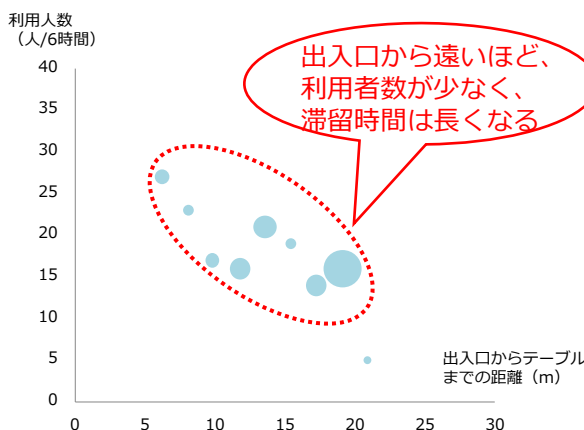


図 4-2-13 「出入口からの距離」と「テーブル利用人数」「滞留時間」との関係

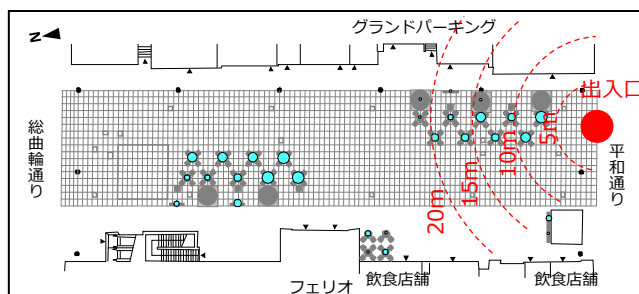
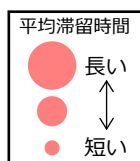


図 4-2-14 テーブルと出入口の位置関係

No.06「座席近くを歩行者が通りやすい座席では、短時間利用が多い」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：テーブル近くの歩行軌跡数（トレース調査）

テーブルごとの平均滞留時間（スタディック・ログ調査）

- ・テーブル中心から3.6m（社会距離：通常の会話、情報交換が行われる距離）以内の範囲を通る歩行軌跡をテーブルごとに集計し、各テーブルの平均滞留時間との関係を分析。
- ・テーブル近くの歩行軌跡が多くなるほど、長時間滞留が見られなくなる傾向が示された。

※調査日16日では、広場半分を別イベントで利用していたため、サンプル数が少なく、この傾向を示すことができなかった。

「テーブル近くの歩行軌跡数」と「テーブルごとの平均滞留時間」の関係

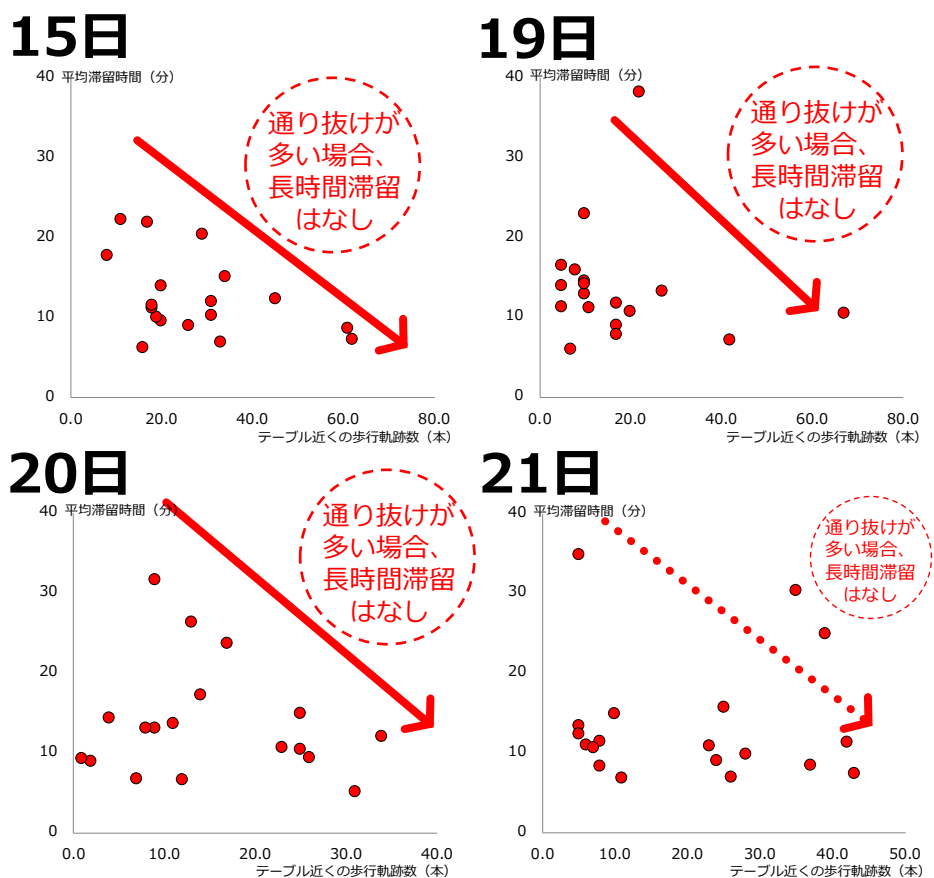


図 4-2-15

No.07「エッジ（植栽）近くの座席は長時間利用されやすい」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：広場南側の植栽から近い座席と遠い座席の平均滞留時間
(スタディック・ログ調査)

- ・広場南側の座席を対象に、植栽に近い座席と遠い座席での平均滞留時間を比較。なお、広場北側は座席位置の選択に大型モニターの影響が強く働いているため、集計対象外とした。
- ・植栽に近い座席は、遠い座席と比べて平均滞留時間が長い傾向にあることが示された。

※調査日15日は、植栽近くに座席を配置しなかったため、当分析の対象外とした。

植栽に「近い」座席と「遠い」座席の平均滞留時間

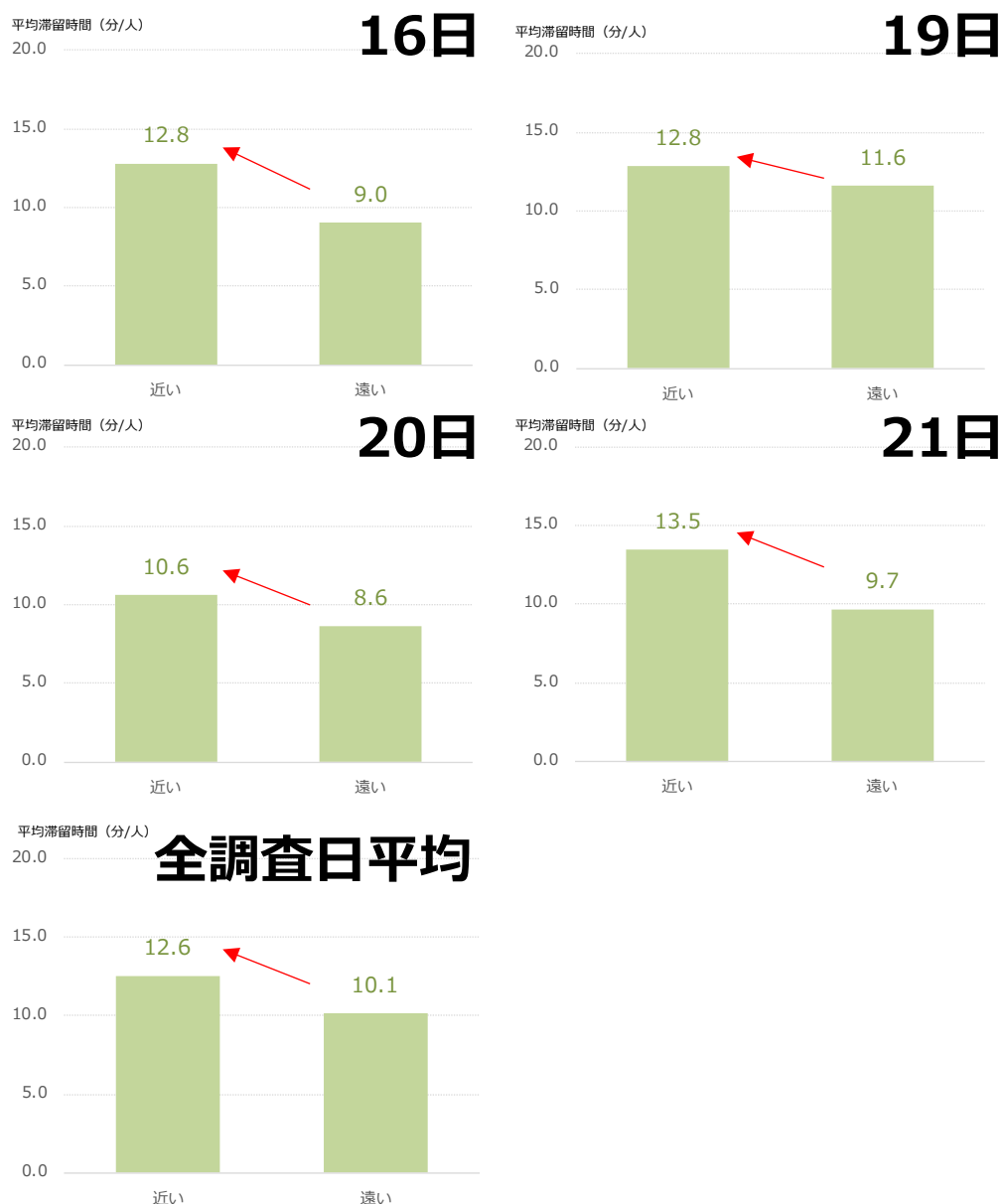


図 4-2-16

No.08「ベンチはテーブル席と比較して、短時間利用されやすい。」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：ベンチとテーブル席の平均滞留時間

(スタディック・ログ調査)

- ・15日を除くと、ベンチの平均利用時間は6分～7分、テーブル席の平均利用時間は11分～13分であり、ベンチはテーブル席よりも平均滞留時間が短い傾向が示された。
- ・15日は、突出して利用時間が長いベンチ利用者が数組おり、その影響でベンチの平均利用時間が長くなっている。

○21日 平均滞留時間の分布 (テーブル別)

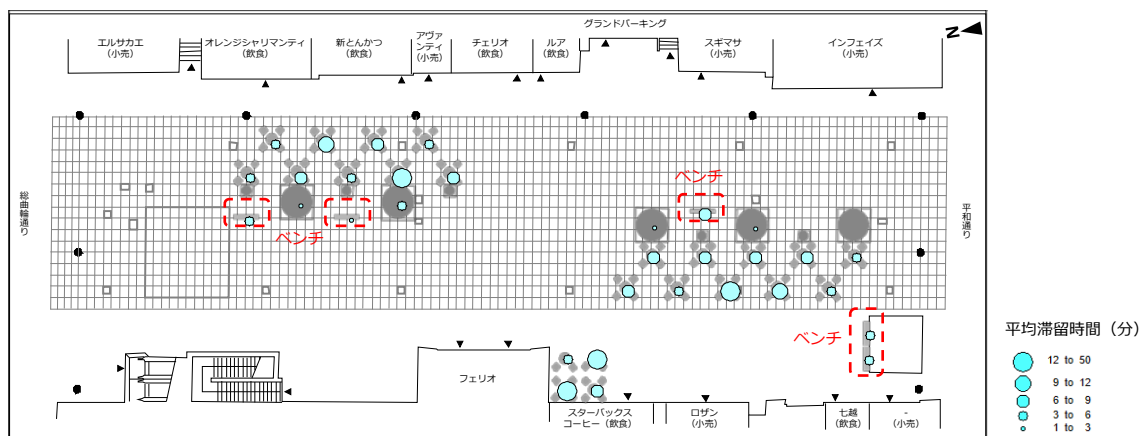
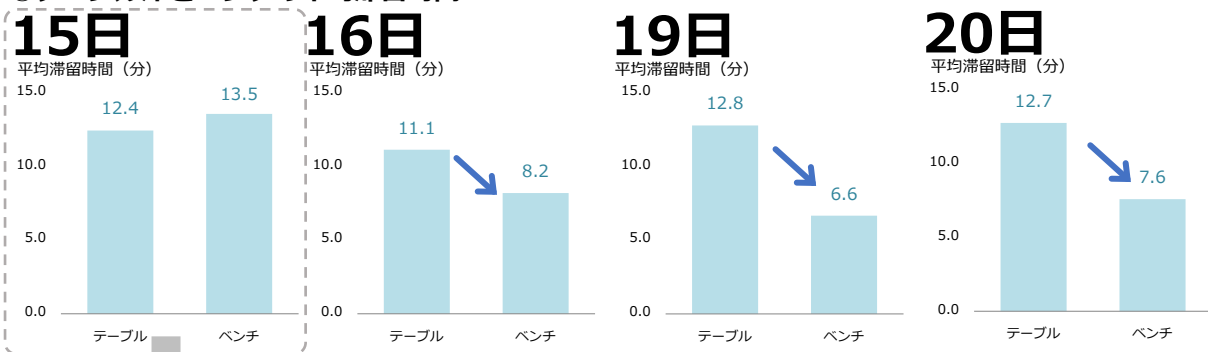
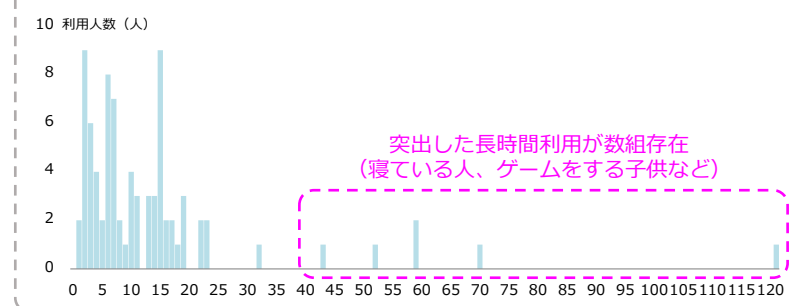


図 4-2-17

○テーブル席とベンチの平均滞留時間



○15日 ベンチの滞留時間別の利用人数 (図 4-2-19)



21日

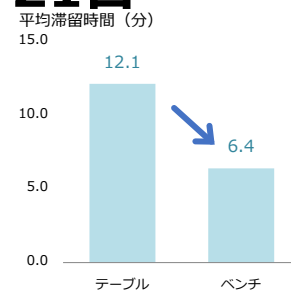


図 4-2-18

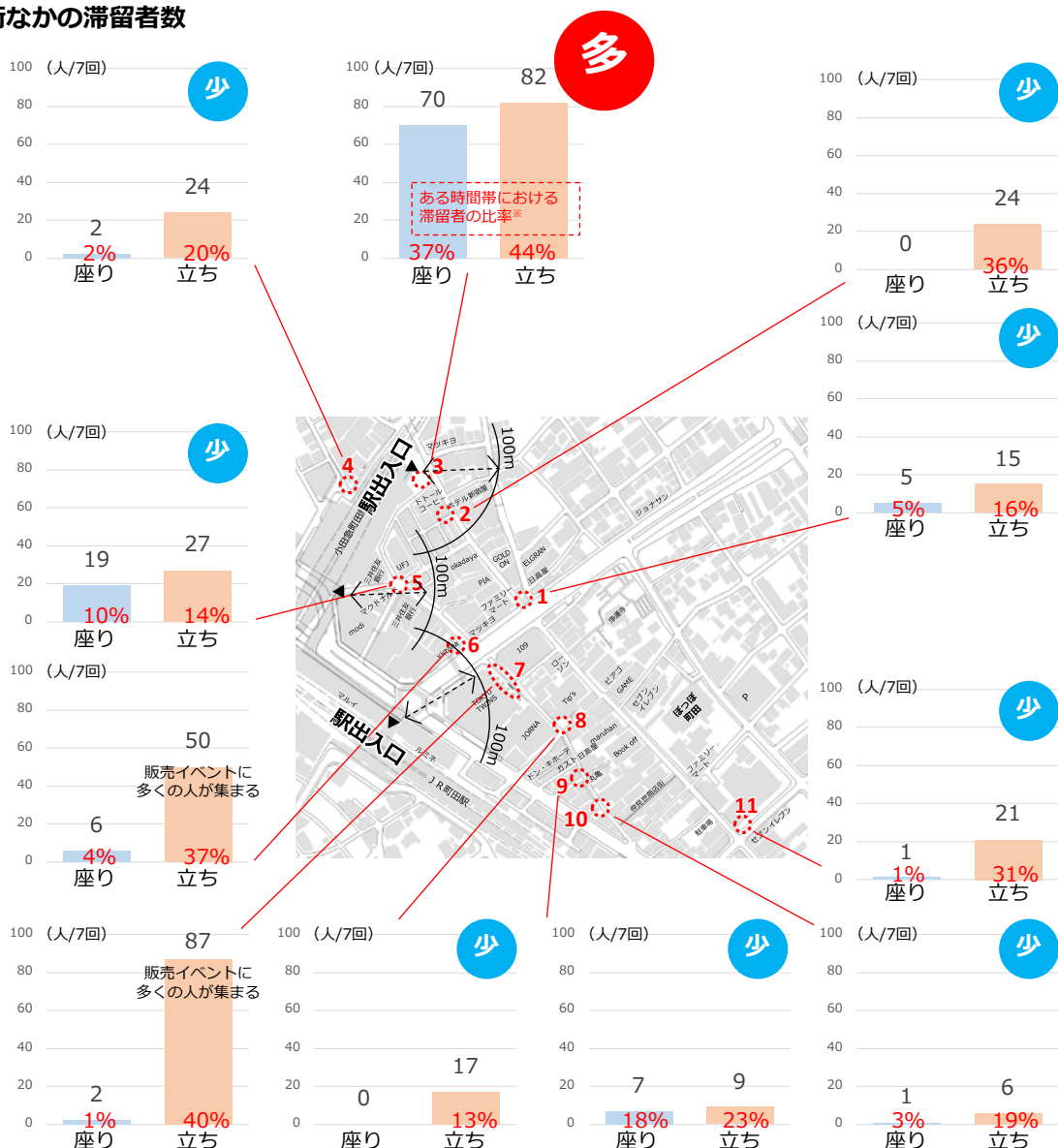
No.09「交通結節点（鉄道駅の主要出入口）近くの広場では滞留行動が多く起きやすい」

利用データ：H28町田駅周辺 調査データ

分析図：街なかの滞留者数（座り・立ち）（スナップショット調査）

- ・町田駅周辺エリアでは非常に多くの人通りが見られるが、街なかにあるちょっとした滞留空間を見てみると、屋外で滞留している人はあまりみられない状況である。
- ・しかし、そういった状況のエリアにおいても、駅出入口近くの広場では比較的多くの滞留者が見られる。滞留者の半数以上は「立っての滞留」であり、ちょっとした休憩や待ち合わせなどに利用されていると考えられる。

街なかの滞留者数



※ある時間帯における滞留者の比率 (%)
 = (ある一定時間の) 滞留人数 /
 (同じ一定時間の) 周辺通行人数

図 4-2-20

No.10「個人利用者は、植栽等で守られ奥まった（凹型にくぼんだ領域の）席を選択しやすい」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：個人・グループ別のテーブルの平均利用回数（スタティック・ログ調査）

- ・個人の滞留者は人通りの多い通路から離れた、植栽等で囲まれた座席を多く利用している傾向が見られる。
- ・一方、グループ利用者は、広場出入口や人通りの多い通路近くの座席を多く利用している傾向が見られる。

個人・グループ別のテーブルの平均利用回数

片側かこまれ型 16日

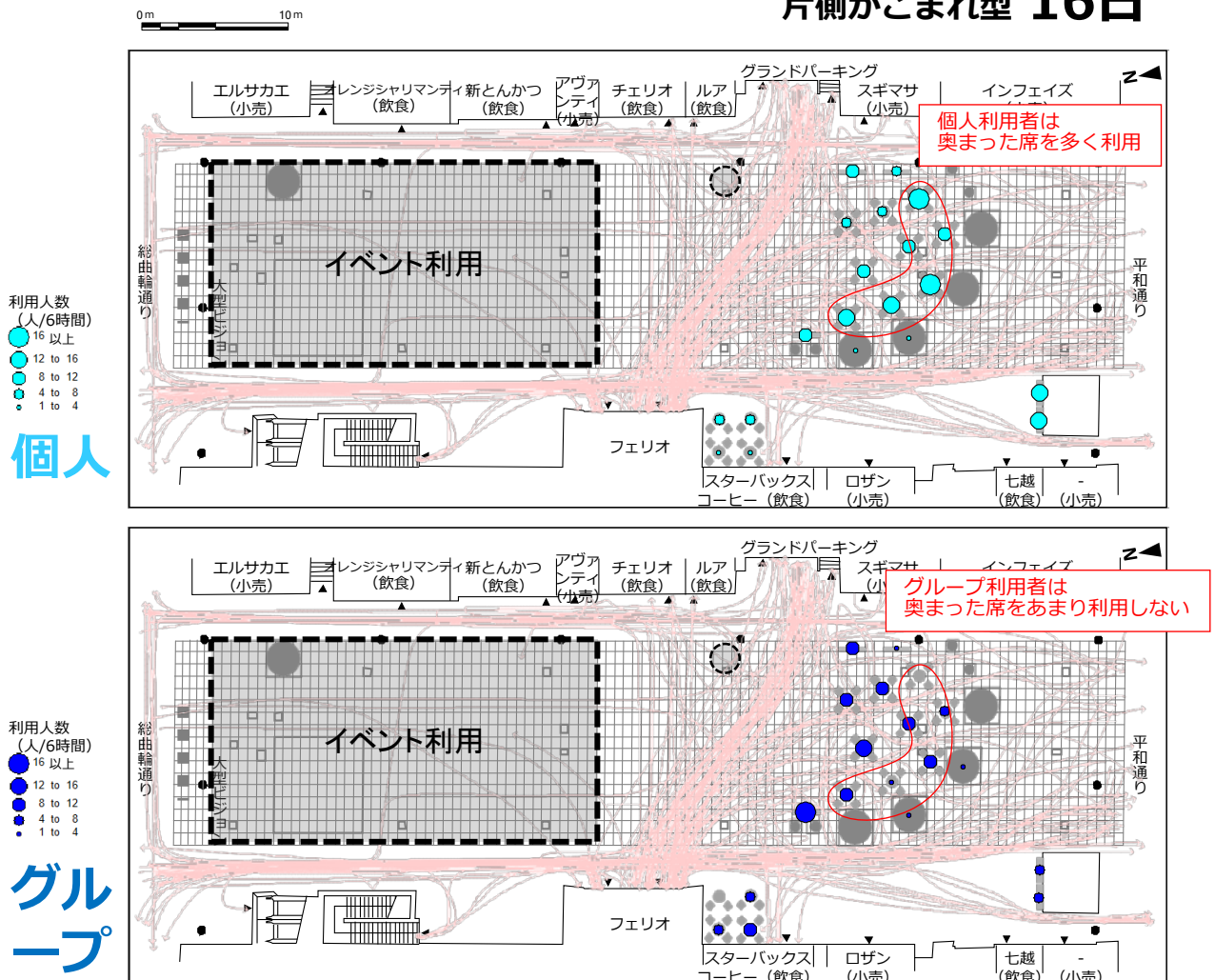


図 4-2-21

No.11 「1人でも利用者がいるテーブル席は、（相席）利用されにくい。」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：各時間帯のテーブル利用率※とイス利用率※の推移
(スタディック・ログ調査)

※テーブル利用率：各時刻のエリア内の全テーブル数に対する利用中テーブルの割合。なお、テーブルまわりのイスに一人でも利用者がいた場合、そのテーブルを利用中として計算。
※イス利用率：各時刻のエリア内の全イス数に対する利用中イスの割合。

- テーブル利用率と比べ、イス利用率は常に低い状況にある。
- 12時ごろ、テーブル利用率が100%近くある時間帯においても、イス利用率は40%程に留まっており、多くの空席が発生している。
- ちなみに、滞留者のグループ構成人数は、個人利用もしくは2人組がほとんどであり、平均構成人数は1.6人である。

「テーブル利用率」と「イス利用率」の比較

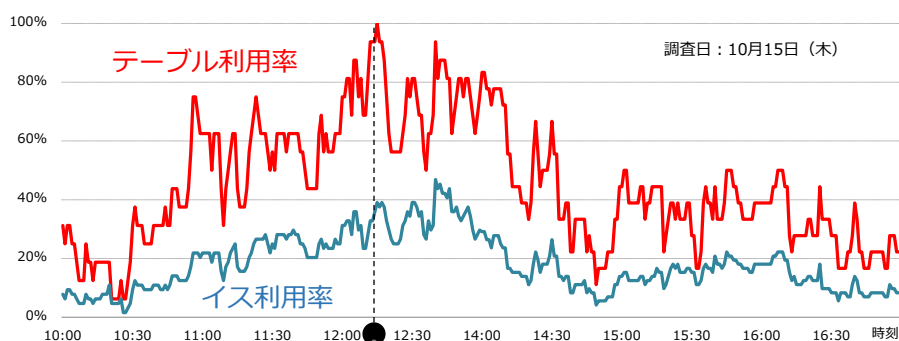


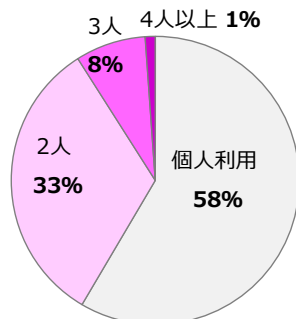
図 4-2-22 テーブル利用率・イス利用率の一日の変化



テーブル利用率
： **100%**
イス利用率
： **40%**

図 4-2-23 テーブル利用の様子

「グループの構成人数」



個人利用： **58%**
2人： **33%**
3人： **8%**
4人 以上： **1%**

平均グループ構成人数
1.6人

図 4-2-24

調査日：10月15日（木）

No.12「テイクアウト可能な飲食店舗近くは、座席の利用率が高い。」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：エリア別のテーブル利用率※

(スタディック・ログ調査)

※テーブル利用率：調査時間帯におけるエリア内の全テーブル数に対する利用中テーブルの平均割合。なお、テーブルまわりのイスに一人でも利用者がいた場合、そのテーブルを利用中として計算。

- ・滞留空間のテーブル利用率を、テイクアウト可能な飲食店舗から近いエリア、遠いエリアで比較。
- ・テイクアウト可能な飲食店舗に近いエリアほど、テーブル利用率が高い傾向にあることが示された。

エリア別のテーブル利用率

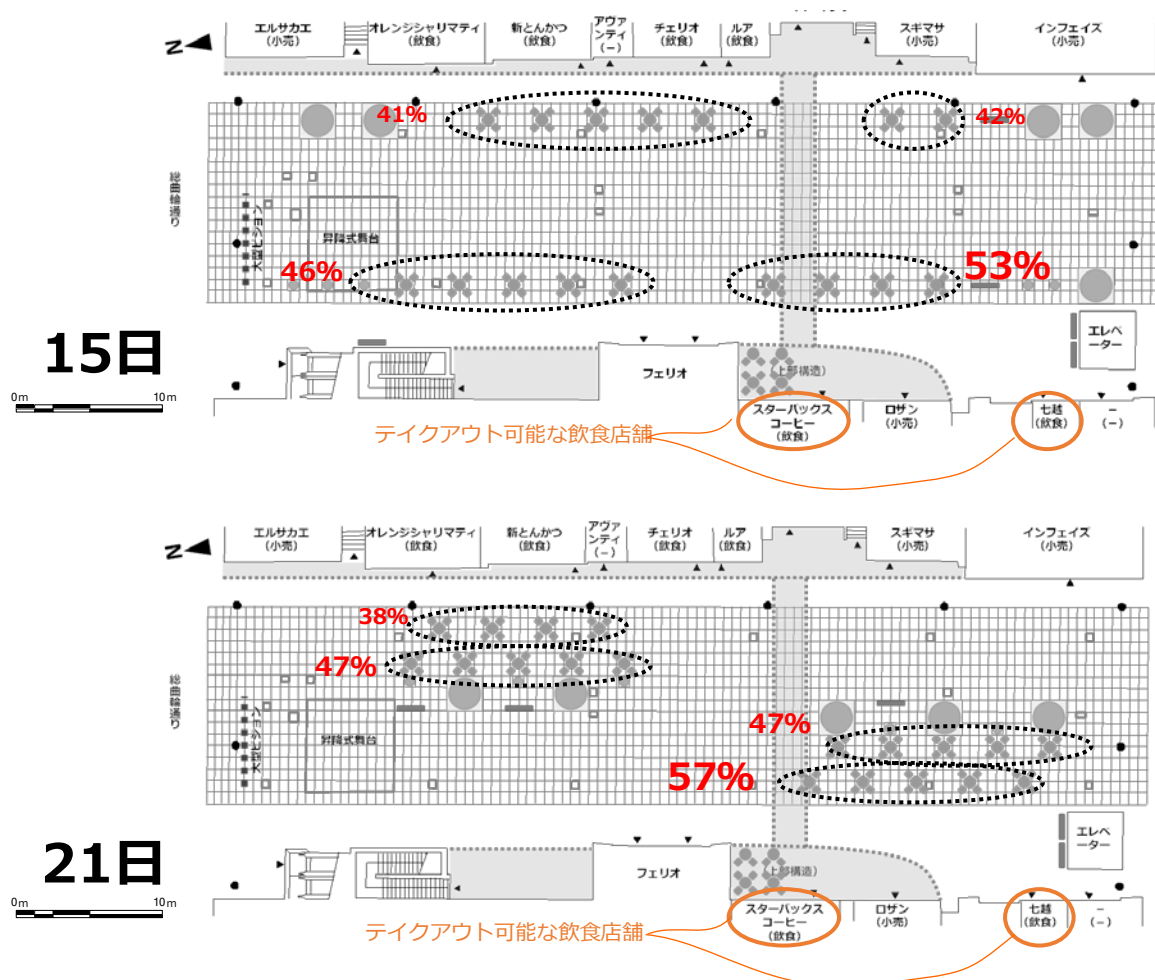


図 4-2-25

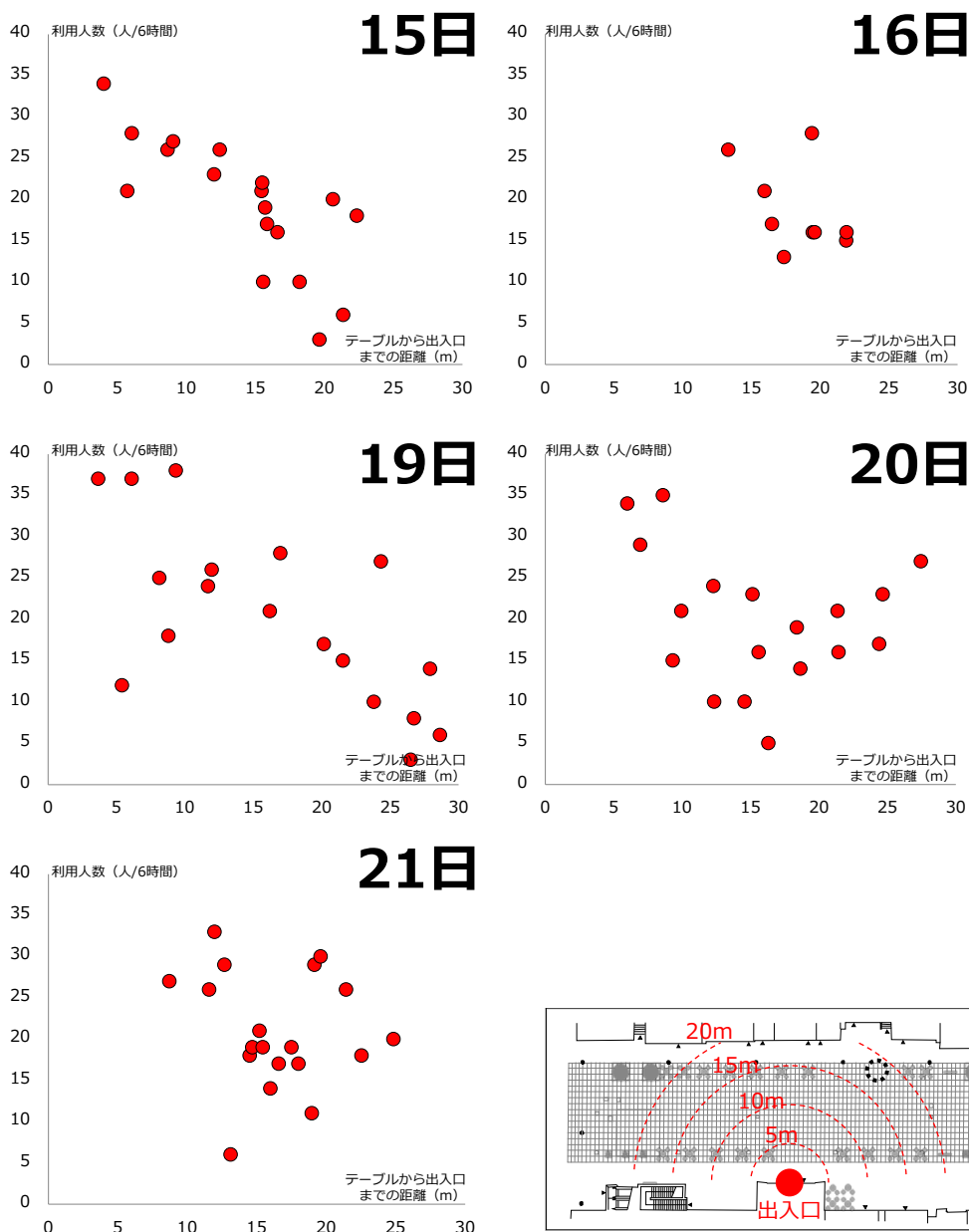
No.13「人通りの多い広場出入口近くの座席は利用されやすい。」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：テーブルから出入口までの距離、テーブルの利用人数
(スタディック・ログ調査)

- ・「テーブルからフェリオ出入口までの距離」と「テーブルの利用人数」の散布図を見ると、出入口から近くの座席は利用が多く、離れた座席は利用が少ない傾向にある。
- ・特に、各座席の周辺条件(植栽・壁からの距離など)が均一に近い15日、19日は、その傾向が強く出ている。

「テーブルからフェリオ出入口までの距離」と「テーブルの利用人数」



No.16「デザインライン上の滞留空間では、座席間の通り抜けが発生しやすい。」

利用データ：H27富山グランドプラザ調査データ

分析図：デザインライン（自然な流れで形成される仮想の動線）、滞留空間の通り抜け数（ショートトレース調査）

- ・滞留空間に重なるデザインラインの数と、滞留空間の座席間の通り抜け数を比較。
- ・人通りの多いフェリオ出入口近くは、デザインラインが集中。デザインラインが複数重なるフェリオ出入口近くの滞留空間では、座席間の通り抜けが多く発生。
- ・デザインラインと滞留空間の重なりが少ない21日は、座席間の通り抜けが少ない。

「デザインライン」と「滞留空間の通り抜け数」

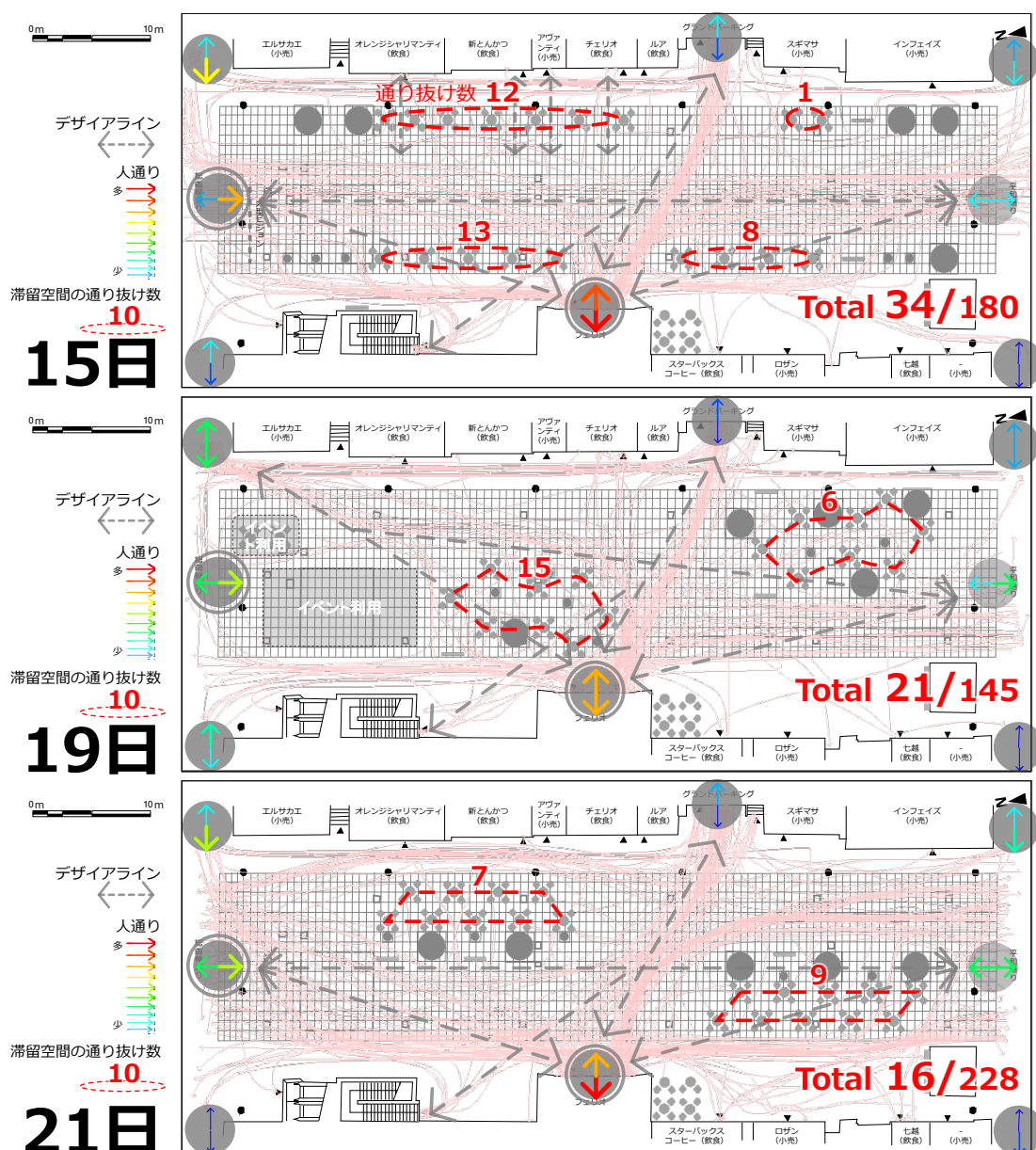


図 4-2-27